

●専修大学

インターンシップ科目における RCC就職レディネス・チェックの 実施について (抄録)



キャリアデザインセンター事務課
キャリアアカウンセラ—
堀野賢一郎氏

専修大学キャリアデザインセンターは、学部教育と連携しながら大学と社会の円滑な接続、学生の人生設計のサポートをする組織で、就職課とは別になっています。インターンシップや各種講座、キャリアアカウンセリングなどを行っています。

今回のRCCへの取り組みは、学部
のインターンシップ科目(単位として認定)の事前・事後教育で実施するものです。

■対象と目的

対象は、経営学部のインターンシップ科目の履修者25名で、ほとんどが3年生(3名が2年生)です。実施したのは6月の末で、8月のインターンシップの前でした。事後教育は、インターンシップで学んだことのまとめや体験談の発表、企業の方からのフィードバック後の12月に実施する予定です。

RCCを実施するに当たって当初期待していたのは、まずインターンシップで学ぶ視点を、各自が明確にすることです。明確にすることによって目的意識がさらに上がり、インターンシップに行つて何に取り組みべきかを整理できるでしょう。それから、事前・事後で行つて自分の成長度合いを自分で把握できるのではないかと、何らかの成長を実感できるのではないかと。三つめは、教職員側が現状を把握し、学生がどこに問題を抱えているのか、どういつタイムニングで何をやるのが効果的なのかを調べて、シラバス等に反映するということだと思います。

■タイムテーブル

90分の授業の中で時間の割り振りですね(表1)。まず10分ほど説明をして、それから質問紙への回答10分、集計ワークブック記入20分、ここまででいたい40分程度。個人差があつて、非常に慎重な子はじっくり読んでやりま
すので、ワークブック記入のところまで吸収する形で、ここまでで足並みを揃える。

その後、3~4人のグループを作り、グループ討議です。自分のワークブックに書いたものを見せ合つて、それぞ

れどんなことを感じたかを話し合つてもらいました。これはなかなかいい話し合いが行われていました。その後、代表者が全員に向けて発表する。それに対して3人の先生からコメントをいただく。その後で、新しい気づきの部分を反映してもらうために、さらに修正してワークブックに書き込む時間を20分取りました。そして、アンケートを取つて終わり、という流れです。

■アンケート

アンケートですが、次のような結果でした(表2)。

1 就職レディネス・チェックは自分の現在の状況を理解するために有効でしたか?

主なコメントとしては、「もつと就職活動に関する情報を知つておいたほうがいいですね」とか、「自分がいかに就職活動に対して向き合えてなかつたかということに改めて気づい

た」ということがありました。それから「各設問と擦り合わせることににより多くの気づきがあつた」。数字だけで何点をクリアしているから、というよりも、どこが自分はズレていて、どこが準備できていたかを検証できたという感想ですね。これによって、何をやったらいいのかわえるのに役立ちました。

同じ10点の子が2人いたとしても、それぞれ取り組むべきところは違つてくる、というのを実感しているということが言えるのではないのでしょうか。

2 今回の結果を受け、インターンシップ実習中に活かしたいと感じたことは何ですか?

「事前の情報収集が足りないの
で、きつちり調べたうえで行きたい」「企業・業界について知識を広げたい」「インターンシップでは、仕事とはどういふものなのかを考えたい」また、意外だったんですけども「そこで関わる

表1 タイムテーブル (実施日:2012年6月19日(火))

時間	内容
14:50-15:00 (10分)	趣旨説明
15:00-15:10 (10分)	質問紙回答
15:10-15:30 (20分)	集計・ワークブック記入
15:30-15:45 (15分)	グループ討議 (3~4人1組)
15:45-16:00 (15分)	代表者発表・教員からのコメント
16:00-16:20 (20分)	ワークブック修正・アンケート記入

表2 アンケート

1 就職レディネス・チェックは自分の現在の状況を理解するために有効でしたか?

回答結果 (名)	はい	いいえ	どちらでもない
	23	0	2

・コメント
もっと就職活動に関する情報を知っていたほうが良かった。現在の自分の状況を客観視できるだけでなく、各設問と擦り合わせることに
により多くの気づきがあつた
今やるべきことを考えるのに役立った。

2 今回の結果を受け、インターンシップ実習中に活かしたいと感じたことは何ですか?

・コメント
事前の情報収集に対する積極性が足りないようなので、きちんと下調べをしたい。
企業や業界についての知識を広げようと思った。
インターンシップでは専門知識だけでなく、仕事とはどうものか考えよう
と思った。
インターンシップ先での人との関わりはすべて大事にしたい。将来につながる何か
をそこから得たい。

3 今後、就職レディネス・チェックを活用したいと思いますか?

回答結果 (名)	はい	いいえ	どちらでもない
	21	3	1

・「はい」のコメント
現在と今後の意識の変化を知りたい。
現実を自分の目で確かめて、さまざまな見方ができるようになりたいから。
・「いいえ」のコメント
1回目で現状がわかつたので、2度やる必要がないと思った。
質問を覚えてしまったから。

人との出会いは全部大事にしたい、将来につながるものをそこから得たい」というかなり前向きな感想が出てきました。「働いている人がどんなキャリアプランをもって今の仕事にあたっているのか、ということも聞いてみたい」というのもありました。

3 今後、就職レディネス・チェックを活用したいと思いますか？

「はい」のコメントは、「自分の成長度合いがどれくらい変化したのか知りたい」「自分が実際にインターンシップに行ってみると感じたことと擦り合わせたい」というような感想がありました。「いいえ」の場合には、「1回めで現状がわかったので、2回やらなくてもいいんじゃないか」「設問を覚えてしまっただけ」という感想でした。

■成果

こうした事前指導での成果ですが、最初の目的である、学生がインターンシップ中に何を学ぶかを明確にするということに関しては、非常に前向きな意識の変化と興味が増えたという印象をもちました。これからの意識の変化と成長を学生が把握する、事後指導での検証が必要になってくるでしょう。

われわれ教職員側からの学生の状況の把握と教育効果としては、事前学習で何をやらたいのかわかってきました。集計した結果、「環境理解度」と「就職活動理解度」の低い学生が多いというのが、今回実施した学生の特徴でした。こうした実施者としての気づきが、3年生以下の学生に対するアプローチ方法の見直しにつながりそう

です。

就職活動のやり方・プロセスがわからないということについては、特にこれを実施した3年生の6月くらいには、キャリアカウンセリングでも秋に向けて何をしたらいいのかという質問が実際非常に多いので、このタイミングで何をやらたいのかを考えるうえでも裏づけが取れたように思います。

また、グループ討議の時に、私は特に「何について話さない」とは言っていないんですけども、あるグループが質問の45「企業や職業について調べるよりも、自己分析を優先させるべきだ」を挙げて、どっちが優先だと思っかを話し合い、全体発表をしてくれました。「自己理解が優先か、仕事理解が優先か」のようなことは、それぞれ考え方の違いが出てきますし、いいも悪いもないという面がありますから、非常に深まる。これを学生のほうに「考えなさい」と振るよりも、自然発生的に生まれてきたということに私は非常に興味をもちまして、大学と社会を結ぶ時の一つの接着剤のような役割を果たすツールになりうると思いました。

最後に課題と改善点ですが、時間配分については90分だと少し足りないかな、と。グループ討議が非常に良かったので、有効活用という意味ではこれにあと20分くらい割いてもよいかなという気がしました。

事後指導の時に、グループ討議にもっと時間を取るとすれば、どこに論点を設定してどこを深めていくかを、あらかじめ教職員のほうで押さえておいて、そこについて話し合ってもらおうという仕組みが必要かもしれません。

これをより役立てるために、ほかのキャリアデザインセンターあるいは就職課の行事に結び付けていかなければいけません。本学では、就職相談、学生相談と比べてキャリアカウンセリングの件数がだいぶ少ない。このツールを使うことで、学生をキャリアカウンセリングに誘導できますし、多人数のセミナーやガイダンスで活用すれば、個別の軽微な相談を減らすことになるのではないかと思います。

「質疑応答」

質問 グループ討議では、「お題」は特に与えなかったのですが、具体的にどのような指示されたのでしょうか。

堀野 「これを受けることによって自分の意識をどんなところにもったかを、それぞれ3〜4人でシェアして、違っているところ、あるいは一致したところについて話をしてください」としか言っていないですね。あるグループでさっきの設問について踏み込んだ議論をしたのは、学生が自主的に選んでそれを話していたということが特徴的だったということですね。

質問 この後の事後指導のところで具体的にはどのような形で行われるのか、目的、落としどころなどをどのようにお考えなのか、教えていただいてもよろしいでしょうか。

堀野 自分がインターンシップで何を学んだか、何を得たかは、みんな違うわけです。単純に点数で見ることにはあまり重きを置かず、できるだけ多人数でシェアをして一人の学びを全員に広げていくようなことにつながればいいですね、ということを担当の先生方と、今、話しているところです。そ

のためには、事後指導についてはこちらのほうで論点を設定しなくてはいけません。という話になっていきます。

質問 事後のほうですが、個別カウンセリングなどはお考えになっていないですか。

堀野 これは授業なので、「これを使ってカウンセリングを受けることも有効ですよ」という紹介程度になってしまっていますね。われわれのほうで全部自主的に企画して作るプログラムであれば、それを必須にして必ず受けるようなプログラムもできるかなとは思っています。

渡辺 今いただいているご質問はみんな非常に重要なポイントで、RCCの使い方、さらには大学のキャリア支援のあり方に踏み込んでいくものだと思います。

グループワークは、実施したことを自分で振り返ってそれを他者に話していくことであって、意見や考え方の違う他者がいて、同じ事象についても人はみな異なる体験をするということに気づいていく。それを通して、自分をまた知る機会になる、まさに自己理解をお互いに深めていく。ですから、特別なテーマを決めなくても、自分の結果を見てどうだったのか、それぞれ言いたいことを自分の責任で選ぶ。すると、ある学生が設問の45を取り上げると、その言葉が刺激になってみんながそれについて考える、と。ここに共同作業の価値が出てくる。みんなが自分を振り返るすごくいいチャンスになっていると思います。